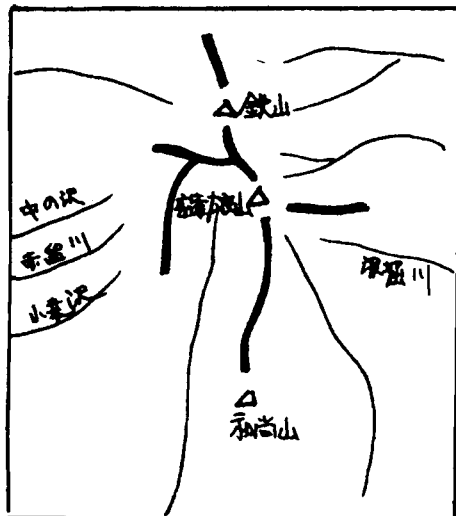


安達太良山一斉遊行

安達太良山の沢は吾妻ほど多くはなく、個性ある沢も少ない。しかし、ナメが多く、吾妻とは異なる新鮮な沢の魅力を我々に提供してくれる。我々の沢登りのホームグラウンドは吾妻であり、その遊行調査に大きな精力が注がれてきたが、時折には安達太良の沢も訪れていた。今回の一斉遊行は、これまで我々としては手つかずであった安達太良山の残りの沢について、一応の集大成を図ることをかね、会津芳山との協同で実施した。

遊行した沢名とパーティ構成

9/26-27	赤留川	L 5
"	小達沢	L 7
"	中の沢	L 7
9/27	深堀川	L 7



深堀川

昨夜の雨はひどかった。今日の沢登りは増水と濁流を予想して、6時に福島を発つ。天気はますます。期待できる。

7時前に深堀川に着く。釣客の車がある。沢は意外にも増水している様子もなく、水もすんでいてきれいだった。裸山でないので浄化作用が強いのだなと感心する。7時10分、遊行開始。まもなく10月だといつのに、水は暖かい。これなら落ちても平気だ。この沢は、水あかやコケも

少なく、歩きやすい。

小滝を越える。途中、岩魚釣人に会う。いつも思うが、同じ沢を対象にしながら立場が全く逆なので、すまないと思う。一息してからゆっくりと、また釣をしてくれ。1匹くらいは釣れるだろうから。

F1, F2 は高さこそ低いものの、いかにも滝だとばかりに通行を妨げている。F3 5mを過ぎ、石畳のようなナメを通過。雑木や草がかぶってきて、まことに歩きにくい。F4 および小滝を通過。

時節は9月下旬。まわりの尾根は紅葉がきれいになりつつある。ウルシかナナカマドか、赤い葉がすきとおるように見事だ。こんな季節になると、「まもなく沢も終わりだな。」とってしまう。

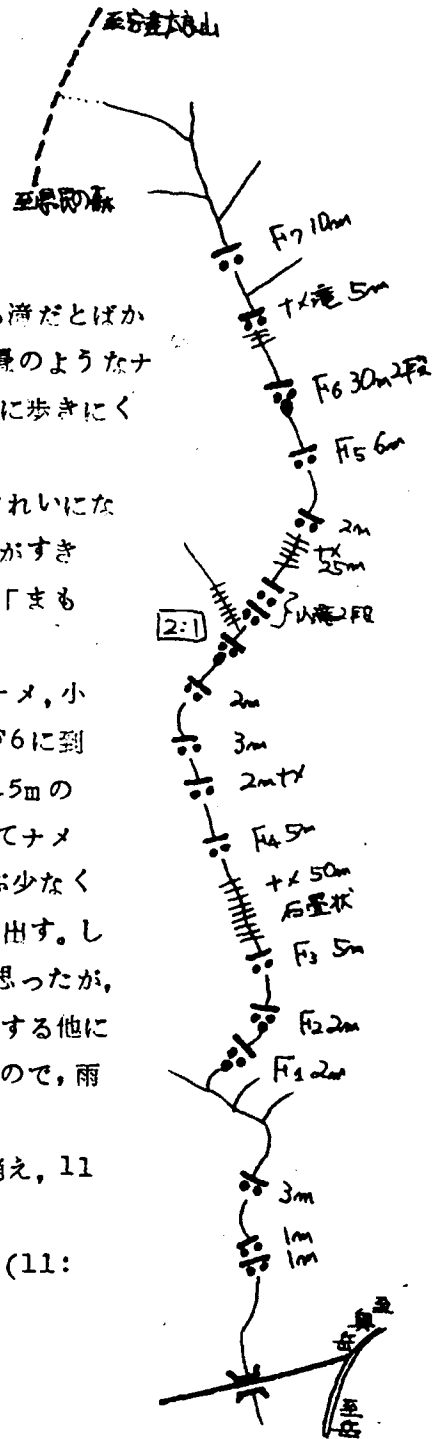
10時前に二俣に出る。右俣を溯行する。ナメ、小滝を通り、F5に着く。何なく登り、30mのF6に到着。2段になり、下段はナメ状の滝、上段は15mの高さだ。ゆっくりと味わいながら登る。続いてナメが出現し、ナメ滝5mをすぎる。水量はだいぶ少なくなり、終わりだと思ふころ、F7 10mが顔を出す。しいていうなら、これは「オマケ」である。と思ったが、滝口がせまく、どうもシャワークライミングする他にルートはない模様だ。今日はそう寒くもないので、雨具を着て登る。

あとはもう滝もなく、11時14分に沢が消え、11時23分に登山道に出る。 (記)

出合(7:10) — 二俣(9:57) — 終了(11:14)

小滝沢

前日夕方からの豪雨で、水量と水のにごりが気



源堀沢(作図:)